

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会**  
**ホワイトスペース活用放送型システム作業班（第3回） 議事概要**

**1 日 時**

平成23年8月18日（木） 14時～16時20分

**2 場 所**

総務省 10階 共用10階会議室

**3 議 題**

- (1) ワンセグ活用事例
- (2) エリア放送型システムの要求条件について
- (3) エリア放送型システムの技術的条件について
- (4) エリア放送型システムの運用の考え方について
- (5) その他

**4 出席者（順不同、敬称略）**

【構成員】 織田（日立製作所）、小野田（代理：吉野）（テレビ朝日）、梶谷（日本電気）、河合（パナソニックモバイルコミュニケーションズ）、倉野（デジタル放送推進協会）、齋藤（テレビ東京）、佐々木（電波産業会）、佐藤（代理：片柳）（日本テレビ放送網）、高田（代理：伊藤）（日本放送協会）、辻村（富士通）、土橋（東芝）、野田（日本ケーブルラボ）、畠山（ソニー）、廣野（フジテレビジョン）、本間（TBSテレビ）、宮澤（電波技術協会）

【総務省】 木曾（総合通信基盤局電波政策課）、林（情報流通行政局放送政策課）

【事務局】 田中、沼田、木村、石黒（情報流通行政局放送技術課）

**5 配付資料**

- 資料3-1 ワンセグ活用事例のご紹介（微弱無線局の活用事例）（辻村構成員）
  - 資料3-2 「エリア放送型システム」のユースケース（織田構成員）
  - 資料3-3 「エリア放送型システム」のシステム要求条件（案）（畠山構成員）
  - 資料3-4 「エリア放送型システム」の周波数の条件（案）（土橋構成員）
  - 資料3-5 「エリア放送型システム」のシステム運用の考え方（畠山構成員）
  - 資料3-6 ホワイトスペース活用放送型システム作業班中間報告（案）（事務局）
  - 資料3-7 今後の進め方（案）（事務局）
- 参考資料 作業班構成員名簿（事務局）

**6 議事概要**

議事次第に沿って、以下の審議を行った。

### (1) ワンセグ活用事例

微弱無線局を用いたワンセグ放送の実証実験について辻村構成員より資料3-1に基づき、また、エリア放送型システムのサービスエリアから見た分類について小田構成員より資料3-2に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

- 資料3-2に記載されている送信出力の値は、13seg当たりのものか、1seg当たりのものか。(廣野構成員)

→ 市街地の実証実験は13seg当たりの出力で、他のものに関しては、1seg当たりの値での想定としている。(織田構成員)

### (2) エリア放送型システムの要求条件について

エリア放送型システムを設計するために必要な機能等要求条件について、畠山構成員より資料3-3に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

- 第1段階におけるワンセグ型というのは、中央のみの送信を示すのか、または12segがNullのものも含まれるのか。(佐々木構成員)

→ 中央のみの送信として考えている。(畠山構成員)

- 送信の形態の第1段階においてワンセグ型は新たな技術基準が必要とされているが、第2段階では必要がないのか。(野田構成員)

→ 再度整理したい。(畠山構成員)

- ワンセグ型の技術基準に関して送信の形態では既に定められた技術基準を基本とするしながらも新たな技術基準が必要と◎であったり、伝送帯域幅の欄では新たな技術基準が必要となっていたりと、記載に矛盾があるのではないか。(小野田(代理:吉野)構成員)

→ 再度整理したい。(畠山構成員)

- 送信の形態でワンセグ型は既に定められた技術基準を基本とするとしているのは、何が考えられているのか。(廣野構成員)

→ 地デジでいうところに送信の標準方式がある。(畠山構成員)

### (3) エリア放送型システムの技術的条件について

エリア放送型システムの無線設備に関する技術基準について、土橋構成員より資料3-4に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

○ 周波数偏差においてフルセグ型の値は、緩和しても良いのではないかと。緩和しない理由が不明確に感じる。（野田構成員）

→ 再度整理したい。（土橋構成員）

○ IFFTサンプル周波数の許容偏差 $\pm 20\text{ppm}$ が受信機の同期範囲 $\pm 20\text{ppm}$ 以上と同一値であることの疑問やスペクトルマスクの値が厳しすぎるように感じる。スペクトルマスクの実現性が不安だ。（野田構成員）

○ フルセグ型のスペクトルマスクの値で技術的に限界があるので、運用で対応すると記載されているが、免許不要を想定する場合、運用に任せるのは危険ではないか。（佐々木構成員）

→ 免許不要を想定する極小電力のエリア放送型システムでは、フルセグ型の実現はないと考えるので、制度化もしないと考えている。（土橋構成員）

○ P 1 4 の注は、P 1 0 のワンセグ型のスペクトルマスクの検討の中でも記載すべき。（野田構成員）

#### （４）エリア放送型システムの運用の考え方について

識別子の運用、選局方法等の課題について、畠山構成員より資料 2 - 5 に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

○ 既存の受信機が誤動作をしないためには、運用する者が規格を十分に理解してしっかり守っていく必要がある。運用規程を守るための監視が重要。（野田構成員）

→ ガイドラインの作成や装置の管理方法について検討しているので、別途説明したい。（畠山構成員）

○ システム管理の識別子は、変更が必要なのか。（倉野構成員）

→ 第 1 段階では既存に識別子のままでなければ誤動作のおそれがある。第 2 段階では変更しなければ、サービスの拡張ができないため、その際に変更することが適切と考える。（畠山構成員）

○ 識別子の運用は、既存の放送事業者としてもサービスに影響を受けることになるのでしっかりと管理して欲しい。その上で、ネットワーク ID は、どのような運用を考えているのか。（廣野構成員）

→ 県域毎にIDが必要なのではないかと考えているところであるが、将来の需要には足りないと感じているので、第2段階の検討では地デジと別の番号空間を確保する必要があると考えている。（畠山構成員）

○ ネットワークIDの繰り返し利用が不可能ならば、送信出力を小さくする等の運用上の制限を加えなければならなくなることもあるので、慎重に議論する必要がある。（織田構成員）

○ 議論すべき事項はまだまだあるが、制度の円滑な導入のためにも、ARIB規格の見直しが必要な事項が多くなるので、できるところから検討を開始していただくことを期待する。（伊丹主任）

#### （5）その他

これまでの検討の内容を放送システム委員会への状況報告及び今後の検討工程について、事務局より資料3-6及び資料3-7に基づき説明が行われた。

最後に、事務局より次回の作業班日程について、9月上旬頃に別途調整をする旨の連絡があった。

以上